

## 17: HLA と移植成績

### 1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 森島 聡子	琉球大学病院	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座 (第二内科)
熱田 由子	日本造血細胞移植データセンター	
池亀 和博	兵庫医科大学病院	血液内科
一戸 辰夫	広島大学病院	血液内科
宇都宮 與	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
鬼塚 真仁	東海大学医学部附属病院	血液腫瘍内科
加藤 俊一	東海大学医学部附属病院	小児科・細胞移植再生医療科
川瀬 孝和	広島大学病院	血液内科
諫田 淳也	京都大学医学部附属病院	血液内科
神田 善伸	自治医科大学附属病院・附属さいたま医療センター	血液科
金 成元	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
小林 武	がん・感染症センター 都立駒込病院	血液内科
高塚 祥芝	公益財団法人慈愛会 いづろ今村病院	
高橋 義行	名古屋大学医学部附属病院	小児科
田中 淳司	東京女子医科大学病院	血液内科
玉置 広哉	兵庫医科大学病院	血液内科
辻 正徳	千葉中央メディカルセンター	内科
西田 徹也	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
前田 嘉信	岡山大学病院	血液・腫瘍内科
増子 正義	新潟大学医歯学総合病院	高密度無菌治療部・血液内科
松野 良介	関西医科大学附属病院	小児科
村田 誠	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
森島 泰雄	愛知医科大学 / 中部さい帯血バンク	造血細胞移植振興寄附講座
横山 寿行	東北大学病院	血液内科
和氣 敦	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院分院	血液内科
渡邊 修大	名鉄病院	小児科
芦田 隆司	近畿大学病院	血液・膠原病内科
高梨 美乃子	日本赤十字社	血液事業本部
星野 匠臣	群馬大学医学部附属病院	血液内科
屋部 登志雄	日本赤十字社 関東甲信越ブロック血液センター	検査部検査開発課
坂本 佳奈	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
藤 重夫	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際 がんセンター	血液内科

宮村 耕一	名古屋第一赤十字病院	血液内科
有馬 靖佳	社会医療法人神鋼記念会 神鋼記念病院	血液内科
近藤 英生	川崎医科大学附属病院	血液内科
河村 浩二	鳥取大学医学部附属病院	血液内科
河田 岳人	兵庫県立尼崎総合医療センター	血液内科
岸本 健治	兵庫県立こども病院	小児がん医療センター血液・腫瘍内科
多々良 礼音	静岡県立静岡がんセンター	血液・幹細胞移植科
萩野 剛史	公益財団法人東京都保健医療公社 多摩北部医療センター	血液内科
藤原 慎一郎	自治医科大学附属病院	無菌治療部/血液科
平林 茂樹	京都大学医学部附属病院	血液内科
石井 敬人	東京慈恵会医科大学附属病院	腫瘍・血液内科
恩田 佳幸	京都大学医学部附属病院	血液内科
加藤 格	京都大学医学部附属病院	発達小児科学教室
川尻 昭寿	東北大学医学部医学系研究科	血液・免疫病学分野
進藤 岳郎	京都大学医学部附属病院	血液内科
徳永 雅仁	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
野波 篤	久留米大学病院	血液・腫瘍内科
村主 啓行	京都大学医学部附属病院	血液内科
吉永 則良	京都桂病院	血液内科
川島 直実	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
白鳥 聡一	北海道大学病院	血液内科
多田 雄真	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	血液内科
田上 晋	東京慈恵会医科大学附属病院	腫瘍・血液内科
平山 雅浩	三重大学医学部附属病院	小児科
福永 景子	兵庫医科大学病院	血液内科
大引 真理恵	名古屋第一赤十字病院	血液内科
東 史啓	日本赤十字社	血液事業本部
新家 裕朗	福井大学医学部附属病院	血液・腫瘍内科
金谷 穰	オスロ大学病院がん研究所	腫瘍免疫分野
竹内 裕貴	安城更生病院	血液・腫瘍内科
友利 昌平	社会医療法人敬愛会中頭病院	血液腫瘍内科
藤野 貴大	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
山下 鷹也	秋田大学大学院医学系研究科	血液・腎臓・膠原病内科学講座
家村 知樹	京都大学医学部附属病院	血液内科
佐藤 貴彦	名古屋大学大学院医学系研究科	血液・腫瘍内科
田中 紀奈	東京女子医科大学病院	血液内科
森田 薫	自治医科大学附属病院	血液学部門

岩崎 惇	京都大学大学院医学研究科	血液・腫瘍内科学
海野 健斗	自治医科大学	血液科
枝廣 太郎	広島大学病院	血液内科
和田 典也	神戸市立医療センター中央市民病院	血液内科

## 2. 会議開催記録(2020年1月-12月)

日時	場所	会議内容
2020年1月26日 (日)	国立がん研究センター	進行中の研究課題の進捗状況報告、新規研究提案などについて話し合った。

## 3. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2020年12月末時点まで) (1586)回

## 4. WGの今後の活動方針・抱負など

造血細胞移植において、HLAは移植免疫反応を担う重要な分子である。HLAに焦点を当て、本学会のデータベースを用いて多数例で解析することによって、臨床に還元できる新たな知見が得られると考えている。近年は、HLA不適合移植も比較的安全に行われるようになっており、造血細胞移植におけるHLAの意義をアップデートしていくことが必要である。

HLA-WGのメンバーが積極的に研究テーマを提案し、ディスカッションを重ねながら、世界に発信できる質の高い研究成果を生み出すことを目標としたい。